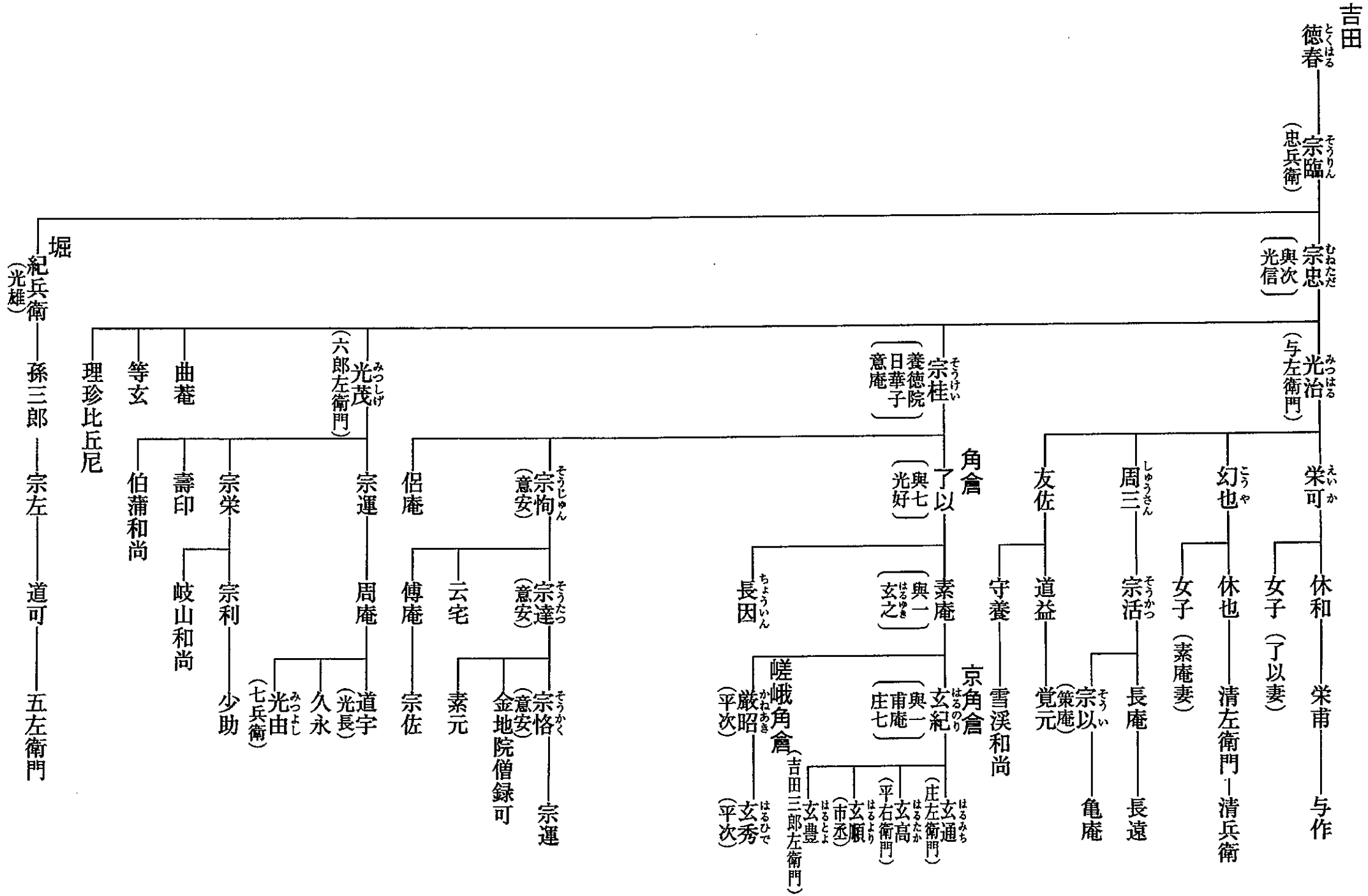
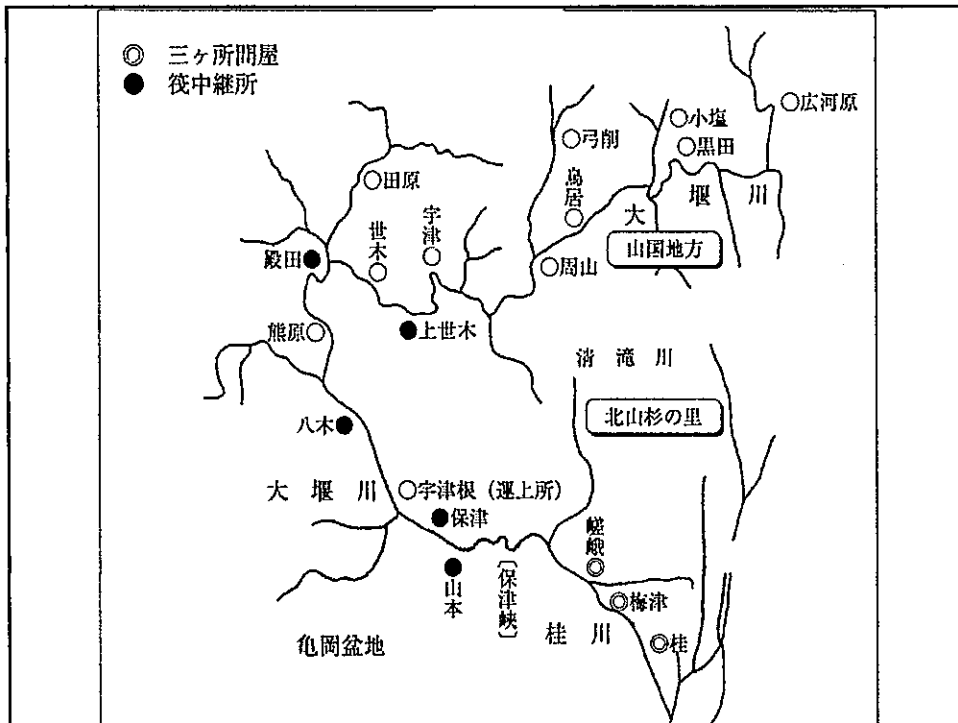


角倉家関連系譜





大悲閣了以碑銘

慶長九年甲辰に了以は美作の和計河に往く、
 舩を以て凡百川皆以舟が通ず可。乃
 嵯峨へ歸り大井川を沂丹波保津至る。其路を
 見、自ら謂う湍石が多いと雖而舟は行く可し、
 翌年乙巳に其子玄之を東武于遣わし以之を
 請う。

台命謂う古より自ら舟通せ未る所は今通
 開を欲すは、是二州之幸也。宜く早く之を為
 すべし。丙午の春三月に了以は初めて大井河
 を浚た。其大石が有る所は則浮橋を構て鐵棒の
 を牽く。水中に在る石は則浮橋を構て鐵棒の
 鋭頭長さ三尺周三尺柄の長さ二丈許を以繩
 を繋ぎ數十餘人の挽扛を使う。而て徑の下に
 之を投と石悉く碎け散る。石が水面より出る
 のは、則烈火で焼碎す。(焉)河廣而浅者石を
 帖り而其河を挾め其水を深く又瀑の有る所
 者其上を鑿ち下流に與え之を平に準す。秋八
 月に速び役は功成り。是より先筏を編み繰の
 舟初て通る。是に於て丹波世喜邑自嵯峨に到る

岩礁工事について

続日本記

寶龜元年（一四三〇）二月丙辰、破却西大寺東塔心礎。其石大方一丈餘、厚九尺（中略）積柴燒之、灌以三十餘斛酒、片々破却、棄於道路。

盤石を破却するに柴をつみ酒を灌ぎて焼却する方法は、當時已に行はれ居りしものなるを知る。後年角倉了以等が保津川・富士川等の球通の際採りし方法も亦之と同じ。

球磨川舟路開鑿工事

本工事は、人吉町より下流に舟行の便を得んが為め、人吉町林藤左衛門正盛が、寛文二年藩主相良頼喬の許可を得、私財を投じ且つ幾多の辛酸を嘗め、四ヶ年を費して寛文五年に竣功せるものなり。工事の至難なりしは、大瀬下の龜石除却にして、極めて苦心を重ねたるが如く、當時神佛に祈願を籠めたるに、稲荷の御告により、岩上に數百把の薪を燃やして漸く破砕し得たりと傳ふ。

『明治以前土木史』より

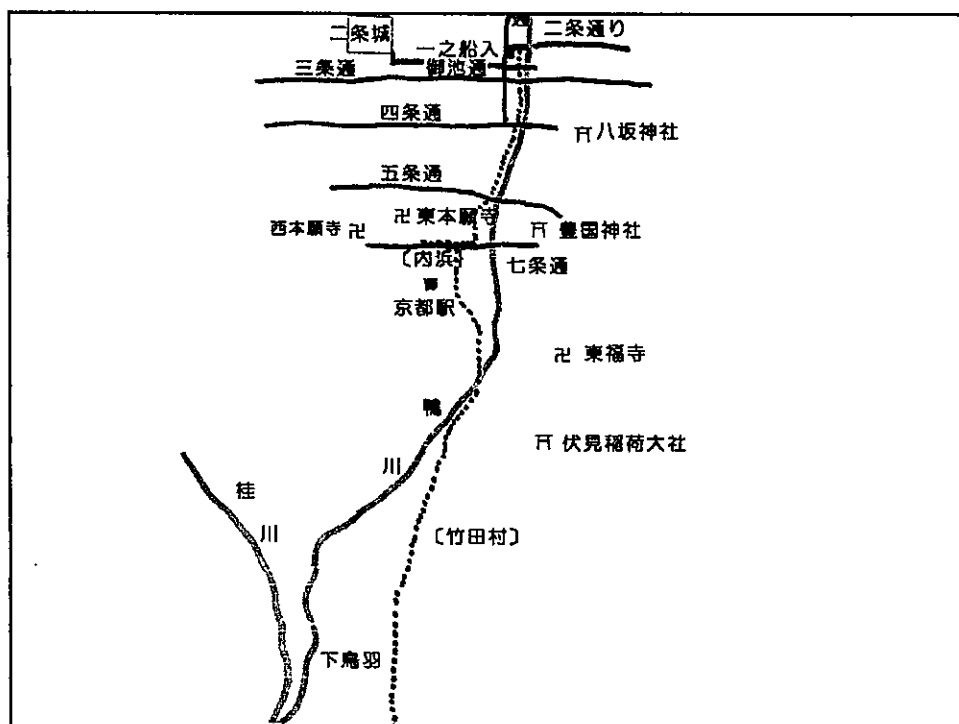
火薬の使用について

日本鑛業會誌第四六八號に掲載せる西尾銈次郎著日本古代鑛業史要後編に左の記事あり

岩石掘鑿には鑿と鎚を用ひたりしが、岩石堅硬なる場合にありては、火力を用ひしは伊豆繩地銀山、陸前砥澤金山の如きあり。又別子銅山の如きも鑛石採掘の際同行法を行へり。然れども其作業遅緩なりしが文久三年大島高任、米國鑛山技師バンベリー及びブレキ等は北海道遊樂部鉛山に於いて火薬破發を試みたり。是實に將に來らんとする明治時代鑛業の前驅と謂うべし。

とあり。爆薬が土木工事に使用せらるゝに至りしは恐らく其以降なるべし

明治以前土木史より



高瀬川工事関係費用について

・『京都歴史地名大辞典(平凡社)』

開削費用は「7万5千両」(『明治32年地所下戻し申請書』)(略)角倉は160艘を就航、諸物資の輸送権を独占して年間1万両の収入を得ていた。

・『角倉了以とその子』林屋辰三郎著

全舟数159艘を回航せしめ船賃1艘1回2貫500文を徴し、内1貫文は幕府に納め250文は舟加工代に支払い1貫250文を所得とした。これに1ヶ年及び折返しの通船8ヶ月を加算する時は年1万圓以上の通船所得となったと考えられるのである。たしかに優れた企業である。

但し『伏見町誌』

元禄2(1689)年15石積

伏見より京七条迄 7匁5分

伏見より京二条迄 8匁5分

『京都御役所向大概覚書』

宝永7(1710)年登り舟15石1艘

伏見より京七条迄 13匁8分

伏見より京二条迄 14匁8分

これから換算すれば7万5千両という数字は大幅に少なくなる。

(注)明治32年12月8日第二回申請書には

「嵯峨川及高瀬川開発ニ七万五千兩ヲ費消シタリ云々(第十三号証并ニ第十三号証付録)」という記述あり(牧英正著『大阪市立大学法学雑誌第22巻第1号より引用』)

太政官布告第六百四十八号(明治4年)

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物産蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府県管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ会社ヲ結ヒ水行ヲ疎シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成上功績ノ多寡ニ応シ年限ヲ定メ税金取立被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者之節ハ其ノ地ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ入費税金ノ制限ノ制限等篤ト取調大蔵省ヘ可申出事但本文ノ趣管内無漏可相達事

資料

京都高瀬川と角倉氏(一)

河川敷に対する私的権利関係

史料その一

牧 英 正

高瀬川

角倉了以とその子与一の事蹟については林慶辰三郎博士の著「角倉了以とその子」が最も詳細である。この後、角倉了以や高瀬川について書かれたものも、實見のかりりでは林慶辰博士の研究の域をほとんど出ていない。同書の第六章は「其後と余采」と題して、角倉氏の高瀬川に対する権益の増進について言及している。すなわち、明治二年三月に行政官の達により角倉氏の高瀬川支配は免じられた。高瀬川および付属の地所も官有地に編入された。角倉氏は権利回復の努力を繰返したが無駄であった。「明治三十九年二月のころより、本家の当主濱知を助けて高瀬川付属の浜地及び川床敷地の下付を内務大臣に訴へるところがあった。併し時代は全く変転し、もはや旧幕時代の古証文

高瀬川改比等下度申請書(一部)
角倉濱知

シ来レリ、然リ而シテ尅百五十九艘(往古ハ百六十艘ノ極メナリシカ一艘破船シ以後許可セラレス、故二本数ノ極メ也)ノ船ヲ製造シ、二条高瀬川ヨリ船伏見ニ通航シ、其百五十九艘ハ日トシテ出切ラサルハ莫シ、毎年九月以後翌四月中、京阪間運送頻繁ニシテ、木林竹石肥料薪炭醤油其他製造工作物ノ重量ナルモノ皆悉ク此高瀬川ノ便ニ因ラスンハ他ニ運搬ノ道ナキヲ以テ、伏見ニ案問折り返シ一日二回船ヲ行リ、尚船ノ不足ニシテ運送ノ速カナラサルヲ憾ム、是等当營業者ノ認ムル所ナリ其船賃ニ至テハ一艘一回式重五百文ヲ徴シ、内尅實文ハ幕府ヘ納メ、式百五十文ハ船加功代ニ支払ヒ、全ク尅實式百五十拾文ヲ所得トス、之レヲ尅ケ年及折返シノ通船八ヶ月ヲ加算スル時ハ、年尅万兩以上ノ通船所得アリシモノナリ

第十三号 (高瀬川開港入費御尋ニ答ヘ書付明治十四年御尋)

御尋ニ付卷中上候書付
嵯峨川筋東高瀬川筋開港御尋相成候ニ付、旧記取調候へ共、玄注右天明度火災ニ而旧記焼失仕、玄運方右寛政度居室焼失仕候ニ付、当今見合ニ可仕確書受ニ無御座候、是迄伝聞仕居候ニ續、凡七万五千兩斗リ、了以自費ヲ以前書両川筋開港仕候申伝米候ニ付、此段奉申上候以上

明治八年四月十四日

角倉玄運
角倉玄注

関連年表

西暦	年号	事 項
630	欽明2年	最初の遣唐使大上御田嶽（いぬがみのみたすき）派遣
894	寛平6年	菅原道真の建議により遣唐使廃止
907	延喜7年	唐滅亡
960	天徳4年	宋建国（1127年靖康の変までを北宋という）
1127	大治2年	宋、南に逃れる（以後を南宋という）
1180	治承4年	平清盛福原遷都
1271	文永8年	フビライ、元王朝を立てる
1279	弘安2年	元、南宋を滅ぼす
1336	建武3年	足利尊氏、室町幕府を開く
1341	暦応4年	足利尊氏、博多商人至本に請け負わせ、造天龍寺船を元に派遣
1368	貞治7年	元滅亡、明建国
1467	応仁元年	応仁の乱始まる。終わるのは1477年
1539	天文8年	角倉了以父宗桂、策彦周良と明に渡る（天文10年帰国）
1544	天文13年	宗忠、帯座座頭職および公用代官職に。この頃土倉も開始
1547	天文16年	宗桂、再び策彦周良と明に渡る
1554	天文23年	角倉了以、宗桂の子として生まれる。名は光好
1558	永禄元年	角倉了以祖父宗忠の長男与左衛門没
1568	永禄11年	信長、足利義昭を奉じて入京。戦国時代の終り
1571	元龜2年	角倉素庵生まれる。名は興一
1572	元龜3年	宗桂没
1573	天正元年	室町幕府滅亡
1579	天正7年	明智光秀、丹波平定
1582	天正10年	本能寺の変。信長、明智光秀に殺される。秀吉、光秀を破る
1583	天正11年	秀吉、大坂城を築く
1585	天正13年	秀吉、関白となる
1586	天正14年	秀吉、豊臣の姓を賜り太政大臣となる
1590	天正18年	徳川家康、江戸城に入る
1591	天正19年	豊臣秀次、関白になる
1592	文禄元年	文禄の役
1594	文禄3年	加古川舟運一期工事
1595	文禄4年	方広寺大仏殿完成。千僧供養。栄可・了以、日横上人に小倉山を寄贈 秀次、高野山で切腹、妻妾子女三条河原で処刑
1596	慶長元年	慶長伏見大地震で大仏崩壊
1597	慶長2年	慶長の役
1598	慶長3年	豊臣秀吉没
1600	慶長5年	関ヶ原の戦い
1601	慶長6年	大久保長安、石見奉行に。板倉勝重、京都所司代に
1602	慶長7年	方広寺の鑄造中の大仏から出火、大仏殿も焼失
1603	慶長8年	了以、家康から貿易朱印状。第一回角倉船 家康、征夷大將軍に、江戸幕府を開く
1604	慶長9年	加古川舟運二期工事始まる。慶長12年まで 第一回角倉朱印船帰国
1605	慶長10年	家康、諸大名に課役、江戸城大改築始まる 幕府、大久保長安・本多正純連名で保津川通船工事を許可 家康、秀忠に將軍職を譲る。大御所と称される
1606	慶長11年	保津川通船工事（春～秋） 角倉素庵、大久保長安と甲・豆・総三ヶ川の鯨山巡視 家康、駿府を隠居地に。翌年移る
1607	慶長12年	幕府、了以に富士川通船工事を命じる 富士川工事着工。幕府、天竜川の通船工事を命じる
1608	慶長13年	貿易朱印状の作成者豊光寺承兌死去のため、朱印状発行中止 貿易朱印状の作成者、円光寺元信となり、朱印船貿易再開
1609	慶長14年	天竜川通船工事、中止 角倉朱印船、丹波海門において難破 秀頼、大仏殿再興を始める
1610	慶長15年	栄可・宗徇没 角倉了以、鴨川疎通工事を開始
1611	慶長16年	了以、豊臣秀次の供養のため京三条に瑞泉寺を建立 素庵、鴨川疎通と大仏殿工事の報告のため家康を訪れる
1612	慶長17年	了以、富士川工事を竣工させる。京高瀬川工事始まる
1613	慶長18年	貿易朱印状を得るが渡航せず、以後角倉家の海外渡航中絶 大久保長安死去、遺産没収される
1614	慶長19年	譜代の老臣大久保忠隣改易 幕府、豊臣家の方広寺大仏供養の延期を命じる 富士川の改修工事の幕命、了以病氣のため素庵が完成 了以、京都嵐山に大悲閣千光寺を建立 角倉了以、7月12日没、二尊院に葬られる 秋に高瀬川工事完成
1615	元和元年	大坂冬の陣 大坂夏の陣 素庵、淀川過番船奉行になる
1616	元和2年	家康、駿府で没する
1622	元和8年	本多正純、所領没収される
1623	元和9年	秀忠、家光に將軍職を譲る
1632	寛永9年	素庵没
1662	寛文2年	林正盛、球磨川の工事に着手（寛文5年完成）
1669	寛文9年	寛文新築工事開始、翌年完成
1690	元禄3年	この年より、幕府に高瀬川運上銀200枚、保津川運上銀20枚

保津川絵図



保津川筏の図

